



公開質問

世の中にはわからないことがたくさんある。
 そんなときにはみんなに相談して一緒に考えてもらいましょうね！

【公開質問 内面と外見】

オウム真理教高橋克也の逃亡劇は、逮捕された蒲田、住んでいた川崎、あの大きなバッグを隠していた鶴見、まさに地元であることもあり、興味を持って見ていました。

そして高橋克也が、麻原彰晃の手が彼の頭にかざされている写真をどうしても捨てきれなかったという報道に衝撃を受けました。17年という長い逃亡生活の中で、また追手がすぐそこに迫っているときですら、その写真を捨て切れなかったほどの信仰。しかもその宗教はあるところを境に道を間違えた信仰であるのに。

人の気持ちというのは簡単には慮ることができません。

ところで、ミーハー話になりますが、いつも考えていることがあります。わたしも高橋克也に負けず、17年の長きに渡ってミスチルというバンドのボーカリストが好きですが、歌が好きなのか、顔が好きなのか、実はよくわかりません。いえ、自分の中の結論は歌の誠実さと外見の誠実さがとても似合っていることが、ここまで長きにわたって好きでいられる原因だと思っているのですが。本当のことを歌っているのだと信じられる風貌を彼がたまたましているのです(*^_^*)彼の顔が麻原彰晃のようだったらたしてミスチルを好きだったか？いやあ麻原彰晃だったら愛せないだろうなあ。

と、するとなんか信仰心薄いですね。

実際に会って声を掛けられ、「わかっている」ふうなこと言われ、空中浮遊なんか見ちゃうと（幹部信者の中には実際見たという人もいるらしい）外見と内面の不釣り合いなんてぶっとんじゃうってことでしょうか？

木嶋香苗という連続殺人事件の被告となっている女性もいます。失礼ながら彼女はデブです。しかし多くの男性から金品をもらって自分を特別な女だと思っていたようです。きれいで若くて痩せてなきゃという多くの女性たちの思い込みをある意味ぶっ壊してくれた女性に見えます。

内面と外見というのは人を好きになるとき、どのくらいのバランスで重要なのか？

実際自分が誰かを好きになるときはどうか？

内面が顔ににじみ出るという話は嘘なのか？

みなさんはどう思われるのでしょうか？ご意見お聞かせください。



日出彦

内面と外見を（よい、わるい）で分けて、ポートフォリオ分析風に分類してみます。

↑ 外見	よい	外面似菩薩内心 如夜叉（女性） 人面獣心	釈迦 イエスキリスト 聖徳太子
	わるい	麻原彰晃 木嶋香苗	末摘花 鬼面仏心
		わるい	よい → 内面

第一象限は「そんな人いるか？」という分類です。宗教を開いた釈迦やイエスはイケメンに描かれていて、第一象限に入りますが、内面は経典やバイブルで証明されているとして、外見は後世の人の願望が入っていないのではないでしょうか？ 本当は第四象限であったりして。オーム真理教が全盛期のときは、麻原彰晃は信者にとって第一象限に位置していたのではないかと思います。逃亡していた高橋克也は17年間もその虚像がリリースされずにいるのでしょうか。ミスチルの例がありましたが、歌と容貌はともに外見に属するのではないのでしょうか？ 内面はすなわち内心でよいかわるいか分からない筈です。ファンは宗教と同じように第一象限においてみていると思います。芸能人の好みは結局外見だけによるもので、第一象限か第二象限のどちらか（すなわち、上半分）なのですが、ファンは外見を担保されると、内面も<よい>と希望的な思い込みをするのだと思います。小生の好きな中島みゆきもしかりで、クールなファンと自認しております。

第二象限は「外面似菩薩内心如夜叉」で、これは修行する男性が煩惱に苛まれる存在の女性を喩えたもののようです。人面獣心ともいうようですね。

犯罪者としての麻原彰晃や木嶋香苗は内面が悪いと折り紙を付けられた稀有な存在で、それに外見も公表されているので、第三象限に収まるわけです。

第四象限の例は源氏物語の末摘花ではないかと思いますがいかが？ 源氏物語の登場人物をこのポートフォリオに書き入れてみると面白いと思いますが、小生はまじめに読んでいないのでギブアップです。

一般に、社会的地位を得た者はそれなりに競争に勝ってきたのですから、内面がそんなによいとは思いません。たとえば課長になれば部下の査定をしなければならず、必ず俺を認めてくれないと不満を持つ部下がいるものです。伝説の良寛さんみたいな過ごし方をしていれば内面よしとなるかとは思いますが……。でも良寛さんはイケメンでないので、第四象限ですね。

さて、質問は誰かを好きになるときは内面と外見の比率はどのくらいかというものでしたが、これこそ「蓼食う虫も好き好き」というように千差万別ではないでしょうか？ 何か一つの部分で好きになると、全体が好きになることもあるようで、＜好き＞な状態に入ると第一象限に、＜嫌い＞な状態に入ると第三象限に考えてしまうものだと思います。

ある人には第一象限に見える人が、別の人には第二象限に見えるという良悪判断の相対性があると思います。また、時系列でも変わっていくのが人間で、子供のころの優等生が凶悪犯人にということもある訳です。



由佳

人を好きになるときの内面と外見のバランス。

簡単なようでものすごく深いテーマという気がします。

まず、「人を好きになる」という現象は、極論をいうと、種の保存が目的だったり、集団の同族意識であったり、保護や非保護の関係であったり、絶対的崇拝の心理状態であったりと、さまざまな状況下で発生する気持ちです。

なので、内面と外見のバランスだけでなく、生理的なものや社会的な立場やその他の環境が、「好き」には大きく影響しているような気がします。

そして、いろいろ考えたり、分析したりしても、必ず上手くいくという絶対値はなく、内面や外見にもものすごく偏りがある人を、好きになってしまうこともありそうです。

たとえで記載されていた、麻原彰晃と木嶋香苗ですが、それぞれタイプが違う「好き」の対象であったと思われます。

麻原彰晃は崇拝の対象だったでしょう。

生きるとはなんぞや？という問いを指南してくれる絶対的存在への傾倒は、かんたんに疑似恋愛にもなりそうです。

一方で、木嶋香苗は上手く男性の心理を利用したと思われます。

好き！と言われれば、男性でも女性でも悪い気はしないものです。

ですが、ほとんどの男性は、失礼な言い方をすると、たくさんの種をまきたい生き物です。

好みの女性でなくとも言いよられると、好きになってしまうのではないのでしょうか。

木嶋香苗は自分で供述していますが、「上質な性行為を提供した」そうです。

あまり恋愛経験のない男性や、生涯1人かもしれないと思っていた男性が、好きと言われ、上質な性行為を提供されたとしたら、私財を投げ打つほどに好きになってしまうのも、無理もないかもしれません。

それにふくよかな女性は、母性そのものですし、あの容姿に安らぎを感じた男性もいたのかもしれない。

先日、うちに泊まりにきていた私の友人に、夫が「人は股間で恋をする」と言うので目ん玉が飛び出そうになりました。

本当は「人は五感で恋をする」と言ったのを、五感を股間と聞き間違えた赤っ恥な私でした（笑）

そういえば、私は浜田省吾の「声」が好きです。これは耳で好きになってますね。

また、人はフェロモンを嗅ぎ分けて、自分の遺伝子を補う対象を見つけるそうなので、鼻でも人を好きになれそうです。

かっこいい人やきれいな人は、目で見て好きになります。

舌で人を好きになるってのは、ピンとこないけど、皮膚で人を好きになるってのは、なんだかわかる気がします。

そう考えると、五感で恋をするってのは、わかりやすい表現だなと思います。

本題の『内面と容姿のバランス』ですが、私は容姿を一目見て好きになる、いわゆる「一目惚れ」はしたことがないし、そういう恋は信用ならないと思っています。

ですが、表情にはその人の人となりのようなものが溢れる瞬間があります。

眼差しや表情に内面がにじみ出るからこそ、その容姿をも好きになるのではないのでしょうか。

「内面に全く魅力がなく共感できないが容姿が完璧な人」と、「内面に魅力が溢れ共感できるが容姿が全く好みでない人」。

そもそもそういう人がいるのか？ですが、いると仮定して比べてみましょう。

両者を好きになることは出来そうです。

でも好きで居続けられるのは、容姿より内面に魅力がある人だと思います。

また、内面の魅力は表情に溢れてくるので、その人の表情ひいては容姿にも、魅力を感じられるようになり、好きが持続しそうです。

結論は、『内面重視！でも、内面の良さが容姿にもにじみ出てくるので、内面100容姿0とはならない』です。いかがでしょうか。。。



yuko

結論から言うと内面と外見ってさほど差はないのではないかなと思う。

どんなに取りつくろっても心の中はしっかりと姿に表れると思うから。

もちろん美人と醜女、イケメンと醜男という外見にそれぞれの差はあると思うけれど、美人がそれだけで魅力的かというそうではなく、イケメンがそれだけでかっこ良いかというそうではない。穏やかで、知的で、前向きに生きている人は顔の造り以上に素敵だと思うから。

例に挙がっていた麻原彰晃、木嶋香苗はまさに内面がその顔ににじみ出ている典型です。

それなのに何故・・・？

麻原の場合は完全にマインドコントロールのなせる業です。本当におそろしい事です。

木嶋の場合は惚れた弱みという事でしょうか。もしかしたら殺された男性達はみな彼女を良い女だと思い、騙されたとも知らず死に至ったのかもわかりません。

どちらにしても心の醜さ、意地の悪さ、そういったものはどんなに取りつくろっても、きっと外見に現われるもの・・・私は最近特にそう感じています。

面食いでない私はたぶんその人の本質、内面にある生き方に共感し好きになるタイプなんだと思います。

ちなみに今好きな人は長唄（三味線）の杵屋勝国先生。

優しく、温かみがあり、ちっとも偉ぶっていらっしやらない。

こういう温厚さも顔に表れるんだと痛感しています。



かずくん

やはり第一印象という言葉があるように、最初は外見で人を判断するような気がする。

その後、少しずつ内面がわかり、付き合っていくという感じではないだろうか？

ただし、外見とは別に、人を安心させ引き付ける力（言葉だったり、仕草だったり）、オーラとまではいなくても、近いものを持っている人はいる気がする。

芸能人なら、それが強いので人を魅了するのではないだろうか？

残念なことにわたしはそこまで深く宗教も芸能人も入り込めないのですが・・・



うさお

うさおの持論は見栄えの良い人は、2倍、信用されるということ。会議の席ではそれが顕著で、同じ発言をしても押し出しの良い人間に発言されると皆納得してしまう。うさおは良く議論の発端となる問題提議をするのだが、後から今の発言に敷衍する形で発言する人が居て、会議が終わったころにはその人が問題提議の発案者ということで、認知されてしまっていることだ。

「あの発言は、彼でなくては出てこないテーマだね」そんな声が聞こえてくる。彼とはもちろん件の人。うさおの発言は議事録にも留められていない。えい、悔しい。

この場合、件の人は見栄えが良い。見栄えの良いという意味は二つあって、一つは姿かたちが整っていて目がキラキラ輝いている人（アクティブな感じがするタイプ、根が暗そうなタイプは器量よしでもダメ）、もう一つは顔だちはさほどではないが、立ち居振る舞いが鮮やかで、喋り方に人を引き付ける人（指が長くてね、それをひらひらされると何かセンスを感じちゃうんだよね）だと思っています。

最初感じた胡散臭さは、綺麗なものを見続けていると、騙されても良いかなあって気になってくる。ホステスやホストに入れあげちゃうのもその口かな。

半面、如何にもこれは胡散臭そうだと言うタイプの人がいる。その人の人格は外見だけでは図れないが、どこか言動を疑ってしまう。見慣れてくるとそうでも無くなってくるともあるが、やはり目つきの卑しそうな人、目が動く人（うさおも目が動くタイプだ、時々たま話しているさなかに、視線が泳ぎ、つられて相手を変な方向に視線を移すことから、うさおの目が動いているのに気が付く。目が泳ぐ人は嘘つきと言われるが、夢想家のタイプもそうだと思います。うさおは夢想家だといいなあ。相手の目を見てしっかり話せば、うさおも信用されるのだが・・・）、また、顔は笑っても目が笑っていない人は、何か汚く見える。信用度は1/2だ。

うさお的には顔が極端に狭い人、極端に広い人も一瞬考えてしまう。やはり今までの経験から表情が読めないからだと思う。

高校の生物の時間に、人の顔は変わる、勉強をすると脳の容量が増えて頭蓋骨を圧迫し、鼻が高くなり美男美女になるよってな話を聞かされました。なるほどとは思いましたが、今にして思えば、そんなに数年で骨格まで変わるかなあ？まあ、品格が出てくるけどね、うさおのように・・・。顔にコンプレックスを持っていたうさおは、その説に飛びつきましたが、未だに顔は変わりません。骨が固いのかなあ。

外見でものを判断しちゃあだめだぞって昔は思っていたのですが、今では第一印象で判断しちゃってます。第一印象はその人間の油断を見抜いちやうもんだと思っています。野田総理はダチョウ倶楽部の上島に似ているので、怪しいと思っていたのですが、「〇〇さん、一緒に・・・しようじゃありませんか」というフレーズを聴くたびに、この人の政治的ポリシ

一って何なんだろうって思っちゃいます。協調路線は悪くはないけど、時には独断で実行することも必要って話がそれちゃったけど、次第にやっぱり上島だあって感が強くなりました。この人は外見で信用されないタイプだと思います。

小泉首相や管総理も顔だちの良いほうに入るのかな。最初は信用が置けるタイプだなあって思いました。騙されちゃいましたよね。某私鉄の顧問弁護士さんたちと訴訟の打合せをしていると、折しも小泉さんの首相就任の報がTVで流れました。二人ともこぞって、「彼の狂信的な目を見ましたか、とんでもない人がなったものです」とおっしゃってました。最初は顔が嫌いだから信用度0なんだなと思いましたが、彼らは容貌にとらわれずに客観的に見ていたようです。

昔から、氏より育ちと言います。今までに、悔いのない良い人生を送ってこられた人は、それが顔や姿勢に出て好感をもたれるのだと思います。幸せな人生を送ってきた人もそうです。逆に人に恨みを持つ人間は、目や表情に卑しさが出るようです。

色々な困難を克服してきた人は、その自信が相手に脅威を与えます。乳母日傘で育った人は思いやりが生まれません。残念なことに、これらの人は実力がありそうに見えたり、品が良さそうに見えますので、上層部の人間には大変よく見られます。出世したかったら、自信を持って目をキラつかせ、ギラつかずに積極性を見せましょう

話は変わりますが、人間は本来持っている性格と、置かれた社会に適合させるような外的な社交性を持っています。ペルソナと言われるものだそうですが、置かれた状況では臆病な人間が攻撃的な人間に思われていることが良くあります。

何を言いたいのかというと、己の顔は自分が作っており、偽の自分を演じることができるので、容貌なんて信用できませんよって話です。でも、深田恭子が笑いかけてきちゃったら信用しちゃいます。(違います、ホコサキさん!)

